

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600285		
法人名	サントラフィック株式会社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	三重県津市戸木町4113-56		
自己評価作成日	平成28年6月10日	評価結果市町提出日	平成28年8月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600285-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 7 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふるさと現場のモットーである「笑顔」を絶やさず、職員と入居者が、日々の生活を送っている。月に1度は行事を取り入れて楽しんでもらっている。初詣・花見・ドライブ・餅つき・合同夏祭り・紅葉狩り・クリスマス会等がある。お風呂は天然温泉榊原の湯を使用しており、ゆったり入浴されている。防災の重要性も感じており、出来る事からコツコツと準備をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然に恵まれた静かな場所にあり、落ち着いて過ごすことができている。事業所では、毎月の行事に力を入れており、その様子を家族や地域の人に伝え、孤立化を防ぐとともに利用者の活性化に努力している。職員の勤務年数は長く、利用者や家族、職員が和気あいあいとした関係で、事業所理念の「笑顔」「家族」を実践している。また、同系列の事業所が近隣にあり、行事や緊急時にお互いに協力し合うことができる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・家族」が、現場のモットーであり、職員同士共有している。	法人創設時に作られた理念をもとに、理解しやすく共有しやすいようにと職員たちが考えた「笑顔」「家庭」を事業所理念としている。ロビーに笑顔の絵とともに大きく書かれ、実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が、運営会議や餅つき等で、交流を図っている。	母体法人の主催による夏祭りが毎年盛大に行われ、当事業所・隣接する系列事業所の利用者が参加している。行事については新聞のチラシや自治会の広報などで伝え、地域の人々も参加して交流の機会になっている。	行事や推進会議参加など、地域との交流の機会を積極的に作っているが、更に交流の機会を深め、日常的なものとして協力体制が作っていただけることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議の際の議題として、認知症への理解や支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動や、現在の状況等を報告し、地域の方々からも意見が出ており、会議終了後は、管理者が職員にも報告している。	事業所管理者、系列事業所、地域包括支援センター担当者、自治会長、自治会担当者が参加して開催されている。自治会参加者からの希望で認知症についての研修や制度の伝達の機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	津市役所に出向き、担当者と意見交換をし、情報を共有している。	事故報告や認定更新時、管理者が直接市役所に行っている。手続きや報告だけでなく、積極的に市担当者と意見交換や情報収集をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義は様々あるが、職員間で話し合いながら、慎重に拘束のない様に努めている。	身体拘束禁止について、職員会議で話し合い、認識を深める機会を作っている。最近重度徘徊のある利用者について医師の指導で、薬物療法を開始したが、それまでは手厚い見守りのみで対応するよう努力していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員が会議等で、資料を基に話し合い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見人制度を使用されていた入居者がおられ、今後も必要に応じて支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり対応し、不安や疑問にも応じ、説明をしっかりと契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2階エレベータ内に御意見箱は設置しているが、家族と職員共、面会時等に直接話し合う関係であり、早期に対応している。	家族の面会頻度が高く、職員は家族との会話の機会を多く持ち、利用者の様子を伝えるとともに、家族の思いを聞くようにしている。家族との関係も良好で、お互いが話しやすい雰囲気を出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少しずつではあるが、職員の要望を、管理者が代表者に話し合い、対応している。	和気あいあいとした職員間の人間関係で、運営に関する意見が出せている。概ね日常業務については事業所内の判断に任せられているが、重大なことは管理者を通して法人に伝えられ実践に移されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境について、必要時には管理者が代表者に話し合い要望を伝えている。課題も多少あると感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなかなか参加出来ない為、去年からは外部講師を招き、勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する施設の職員と、勉強会を開催し、サービスの質の向上に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や入居者からしっかり話を聞き、少しでも不安が解消出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となり、家族から情報を頂き、不安解消出来るよう、関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接する施設と連携を取り、提携医の助言を求めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせながらも、何でも言い合える関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を中心に、話し合いながら関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	県外からも面会に来られ、一緒に外出される事もあり、管理者から近況報告もしている。	家族の協力で一時帰宅や墓参りの機会を作っている。また利用者と同じ職場だった人の面会も定期的にある。職員は以前の職業や地域の事を会話のきっかけとしたりして、馴染みの場や時間の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人だけの空間も大切だと認識しているが、入居者同士が助け合う事も必要であり、状況に応じて、職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から連絡があれば、必要に応じて、相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重しながら、出来る限り支援している。	家族同士のような雰囲気の中で利用者の思いを把握している。認知症の重度化により、会話による意思表示が難しい人が増えてきているが、職員は表情や仕草で意向の理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査表を基にしながら、入居後のケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後の体調管理チェックと、1日3回のホーム内の温度・湿度確認を実施しており、早期の体調変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で問題点の把握をし、家族とも話し合いをしながら、介護計画を作成している。	全職員が各利用者を理解しており、情報を共有して職員会議で計画作成、日々の経過についてカンファレンスしている。内容については議事録に記録するとともに、3か月毎にモニタリングとして整理している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡・受診・介護記録等を活用しながら、職員が情報を共有している。緊急性があれば、その日その日に職員同士で決定する事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせ迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に暮らせる様日々支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム側協力医とは管理者がしっかり関係を築いており、往診日以外でも電話対応など支援してもらっている。	家族の希望により、ほとんどの利用者が協力医が主治医になっている。月1回往診があり、健康管理を行っている。個別の医療カルテ、受診ノート、投薬表がつくっており、緊急時も全職員が対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はホームには居ないが隣接施設の看護師に対応してもらおう時もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が、提携医や家族と連携を取りながら、病院関係者との情報交換等もしており、関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には重度化・終末期対応は困難である為、入居時に管理者から説明している。	事業所の体制や構造から、車いすでの生活が難しいため終末期の対応はしておらず、入居時にそのことを説明して理解を得ている。入居後、状態に変化があった場合、今後について主治医や家族と話し合い、転居や入院の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医とも情報共有しながら、適切に対処出来る様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。消防からの助言等にしっかり対応し、今後もより一層力を入れていきたい。	年2回、消防署の協力のもと避難訓練を実施している。火災の場合、その他災害の場合でマニュアルが作成してあり、それに沿って普段も階段を使う訓練をする事がある。緊急時自治体に協力体制の依頼をしてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長きに渡り人生を歩んで来られた大先輩であることを認識し、対応時も十分配慮している。	個々の利用者の個性を尊重して、その人に合わせた声掛けや対応を心掛けている。排せつ介助時、対応や汚染物品の処理について、尊厳を守るよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、暮らしのサポートをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感が感じられる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現時点では、準備・片付けは職員が対応し、食事も別であるが、食事時には声を掛けたりしている。	3食とも食材宅配業者を利用して、調理のみ職員が行い、効率化を図っている。重度化により利用者の参加は難しくなっているが、オープンキッチンのため、匂いや雰囲気を感じることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・材料等は業者委託であるが、栄養のバランスには配慮している。アレルギーのある方への対応も支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・週1でポリドントにて義歯洗浄し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にはトイレが設置してありプライバシーは守られている。必要時には誘導し、個々に合わせ支援している。	各居室にトイレがあることで自分で自発的にトイレへ行き、自立支援の一助となっている。介助が必要な利用者についても一斉介助でなく、個々の状態にあわせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	マッサージや便秘解消運動を取り入れて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、温泉の湯・大浴場でのんびりと入浴して頂いている。	週2回、併設のデイサービスの浴室を利用して入浴している。榊原温泉の湯を運んでおり、浴槽は大きく、利用者はゆっくりと温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中「昼寝の時間」を設けており、一人ひとりの状況にも合わせながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携医とも相談しながら対応している。管理は職員がしている。一人ひとりに投薬表が作成しており、救急対応時にも役立っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業をされる方や、計算問題をされたり、一人ひとりに合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴をしたりドライブにも出掛けたりされる事もある。	ドライブや花見・外食など、定期的に外出行事が組まれている。周囲は自然環境に恵まれているため、気候の良いときには近隣を散歩している。また、周囲がベランダで囲まれているため、歩行自立の人は外気浴ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で保管している。必要時は家族了解し、使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて対応するが、入居者からの訴えはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年から全てLED電気に交換した。季節ごとに職員と入居者で作成した物も、ドア等に掲示している。狭い空間ではあるが、それぞれ工夫している。	事業所全体がヒノキの木質が活かされた落ち着いた内装である。フロア部分はやや狭く、廊下に利用者用の椅子を配置しているが、手作りのカバーがかけてあり、温かい雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室を出るとすぐにホールになり、皆が思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用している物等持参されている方は少ないが、写真等見て懐かしく感じている方も見える。	居室内は木製の棚が配置され、ドアも木製で落ち着いた家庭のような居心地の良さがある。毎日事業所内の掃除を徹底しており、居室も居室内トイレも清潔保持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた生活空間ではあるが、職員が一人ひとりに声を掛けながら対応している。		